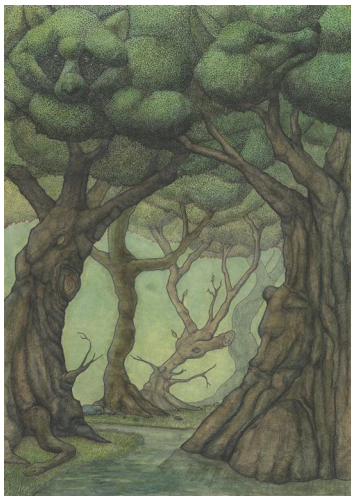


農林漁業のうごき

京都府 No.187 令和2年

「国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール」
(全国応募) で府内応募作品が**入賞!**

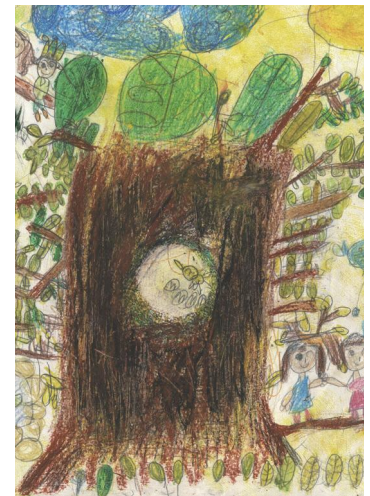


特選

◀ 文部科学大臣賞
京都市立
銅駝美術工芸高等学校3年
尾崎 アロハさんの作品

入選

国土緑化推進機構理事長賞▶
亀岡市立
保津小学校1年
山内 杏さんの作品



内容

特集 1

京都府農林水産ビジョン

～希望と活力に満ちた農林水産業と農山漁村暮らしの共創～…………… 2～4

特集 2

令和2年度 農林水産関係当初予算の概要…………… 5～8

トピックス

丹後 TABLE が錦市場商店街にオープン! …………… 9～10

京都府産農林水産物 台湾への輸出拡大へ!

新たな「京都ブランド米」が誕生します!

畜産人材育成研修第一期生募集の結果、2名が合格しました!

海の民学舎修了生が漁業者としての船出を迎えました!

「京都林業のつどい」を開催!

シリーズ

農林水産技術センターへようこそ 第11回 生物資源研究センター・畜産センター…………… 11

地域の取組

(京都乙訓) 令和元年度乙訓農業大会を開催! / 狩猟(わな猟)初心者講習会を開催! …………… 12

(山城) やましろ式スマート農業現地実演会開催/お茶の京都 食のシンポジウムを開催! …………… 13

(南丹) 「京都丹波木づかい運動」の推進/ 京都丹波のイチ推し食材の魅力を発信…………… 14

(中丹) 令和元年度 「中丹いち推し商品」が決まりました…………… 15

(丹後) 旬の食材が地元で食べられます! 「海の京都旬の食材フェア」開催中…………… 15

シリーズ

スマート技術の活用で農林水産業が変わる! …………… 16

特集
1

「京都府農林水産ビジョン」

～希望と活力に満ちた農林水産業と農山漁村暮らしの共創～

京都府では、今後の農林水産行政を計画的かつ総合的に進めるため、農林水産業や農山漁村の希望ある将来ビジョン(20年後に実現したい3つの姿)を示すとともに、歴史・文化、産業や大学の集積など京都の強みをフルに生かした取組を展開するため、昨年12月に「京都府農林水産ビジョン～希望と活力に満ちた農林水産業と農山漁村暮らしの共創～」を新たに策定しました！

計画のポイント

- ① 3つの実現したい姿のもとで、5つの「重点戦略」を今後4年間で集中展開します。
- ② 重点戦略に基づく施策の展開方向と目標数値を設定し、総合的かつ計画的に推進します。
- ③ 仕事や住居、暮らし、ビジネスマッチングなどの相談・伴走・情報発信に取り組む推進体制を構築します。

概ね20年後に実現したい3つの姿

○ビジネス(農林水産業)

～魅力的な「産業」として夢あふれる農林水産業のイノベーションが実現されている～

- ・京都らしいスマート農林水産業が確立され、収益力が向上しています。
- ・京都産農林水産物が府内・首都圏・世界から愛されるブランドとなっています。
- ・京都の食文化に愛着と誇りを持ち、食を大切にする気持ちが育まれています。
- ・地域の農林水産業を支えるリーダーなど新たな後継者が育ち、活躍しています。



○コミュニティ(農山漁村)

～地域の人々の希望と活力に満ちた「農山漁村」が実現されている～

- ・集落活動や地域の行祭事に参加するなど、農山漁村と関係する人口が大幅に増加しています。
- ・二地域居住も含めて副業・兼業など仕事や新しいライフスタイルの場として農山漁村が選択されるとともに、多様な地域ビジネスが各地で展開され、持続しています。



○セキュリティ(安心・安全)

～防災対策や食の安全確保など安心・安全な地域社会が実現されている～

- ・防災・減災対策が進み、気象災害等の発生時に農林水産業・農山漁村の被害が最小限に抑えられています。
- ・環境負荷の低減を目指した農林水産物の生産や品質管理、多言語での食品表示が進むなど、府民や府内を訪れる全ての方が常に安全な食事を安心して選択できています。
- ・ICTを活用した効率的な捕獲、ジビエへの活用等により、野生鳥獣被害対策が更に進んでいます。
- ・畜産農場における防疫対策が強化され、安心・安全な畜産物生産が継続して行われています。

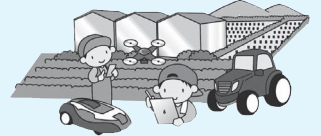


今後4年間で集中展開すべき「5つの重点戦略」と施策の展開方向

戦略1 スマート&コラボで農林水産業の夢と未来を創る

- スマート関連技術の開発とカスタマイズを進め、中山間地や特徴的な品目の多い京都に合う形で実装するなど、若者に魅力ある農林水産業を創出します。
- 農林水産業の各分野で伴走支援体制を確立し、生産現場と企業のコラボレーションを支えるなど多様で魅力的な農林水産業を創出します。

【目標数値】	基準値(平成30年)	目標値(令和5年)
農林水産業産出額	786億円	→ 820億円
スマート関連技術導入者数	0件	→ 40件 ほか



戦略2 「林業の再生」と「防災・減災」の両輪で健全な森林を目指す

- 森林経営管理法の制定や森林環境譲与税の創設を契機に、木材生産の拡大と森林整備・保全を推進します。
- 治山施設や荒廃森林の整備、住民との災害情報共有など、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を進め、府民の暮らしの安心・安全を確保します。

【目標数値】	基準値(平成30年)	目標値(令和5年)
素材生産量	13.7万m ³	→ 24.6万m ³
山地災害危険地区の整備数	1,660箇所	→ 1,960箇所 ほか



戦略3 「京都らしさ」を生かしたバリューチェーンで国内外への展開を加速する

- 「京都」ブランドの裾野の拡大など差別化戦略と京都の食文化との一体的な発信による輸出拡大やインバウンド需要の取り込みを重点的に推進します。
- 「京もの」の新たな製品の認証や品質の良さの見える化を進めるなど信頼の基盤を構築します。

【目標数値】	基準値(平成30年)	目標値(令和5年)
農林水産物・加工品の輸出金額	7.4億円	→ 16.9億円
需要に合わせた新たなブランド製品数	0件	→ 10件 ほか



戦略4 人づくりの裾野を広げ多様な人材が育む産業・地域を実現する

- 地域の農林水産業を牽引する意欲ある人材を育成・確保し、ワーク・ライフ・バランスの実践などの働き方改革や企業参入、集落営農等で担い手を確保します。
- 副業や兼業など多様な働き方や農福連携の拡大等を通じて、外部人材と地域を橋渡しすることで農林水産業・農山漁村を支える人材を増やし、多様な担い手が支える農山漁村地域を構築します。

【目標数値】	基準値(平成30年)	目標値(令和5年)
新規就業者数(農業)	165人	→ 150人
新規就業者数(林業)	30人	→ 30人
新規就業者数(水産業)	52人	→ 50人 ほか



戦略5 地域住民に寄り添い、強みを磨いて農山漁村(ふるさと)の絆を守る

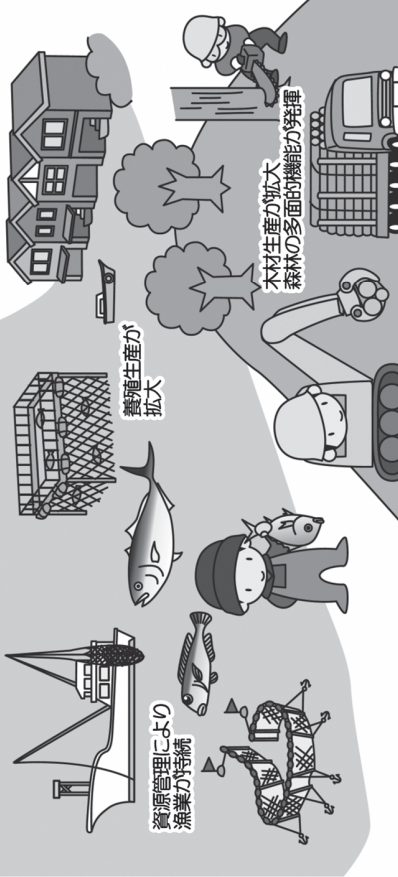
- 「住まい」「仕事」両面から支援をするとともに、「家」の確保、移住者と地域の思いとのミスマッチの解消などにより、移住・定住を促進します。
- 地域外の人材である「関係人口」の増加、大学、企業等と共に地域資源を磨き活用するなどにより、持続的で将来への希望と活力に満ちた地域を創出します。

【目標数値】	基準値(平成30年)	目標値(令和5年)
農山漁村等への移住者数	658人/年	→ 1,300人/年
関係人口数	1,236人/年	→ 1,800人/年 ほか



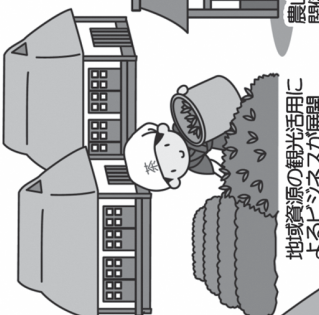
京都の農林水産ビジネス

～希望と活かに満ちた農林水産業と農山漁村暮らしの共創～
 京都ならではの多様で特色ある農林水産業・農山漁村を次の時代に確実に引き渡すため、今後の農林水産行政を計画的かつ総合的に進めて参ります



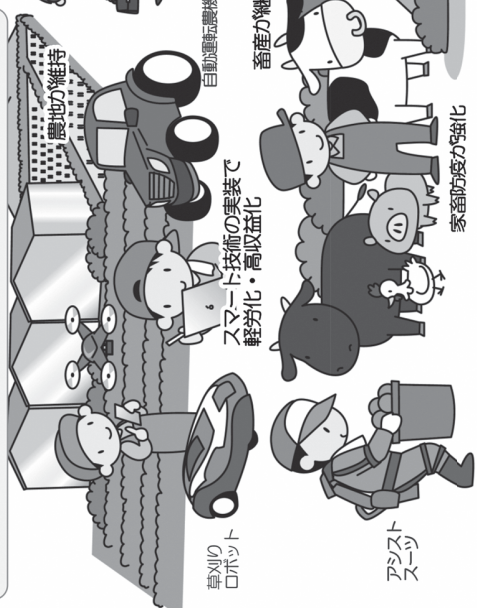
コミュニティ(農山漁村)

- 観光や農山漁村体験などにより地域のファンが増え、京都の農山漁村に関わる人が大幅に増加しています
- 京都ならではの都市と田舎の近さを生かし、二地域居住や兼業・副業など新しいライフスタイルの場になっています



ビジネス(農林水産業)

- 中山間地の多い京都に合わせたスマート技術の実装が進み、農林水産業の収益力が向上しています
- 京都の農林水産物が国内外から愛されています
- 農林水産業の担い手が育ち、各地で活躍しています



地域資源の種別が活用によるビジネスが展開

農山漁村体験などで関係人口が増加

農産物直売所、6次産業化、農家レストランなどで収益の向上

都市から農村への周遊

農山漁村への移住者が増加

草刈りロボット

自動運転農機

スマート技術の実装で軽劣化・高収益化

畜産が継承・持続

府内産農林水産物の小売利用が拡大

野生鳥獣による被害が低減

ため池など農山漁村の基盤整備・防災対策が進展

山地災害対策の進展

二地域居住・週末農家が増加

Uターン・移住者向け住居が充実

サテライトオフィスなど空家の活用が増加

セキユリティ(安心・安全)

- 農山漁村、森林の防災・減災対策が進み、気象災害等による被害が最少限になっています
- 品質管理、多言語表示などが進み、府内全ての人が常に安全な食を選択できます

ビジネスの推進体制

窓口機能

農林水産業・農山漁村に関する相談が気軽にでき、これらに関わりたくくなるような窓口として各地域で活動します

個々に応じた伴走機能

相談を受けた課題の解決や交流で生まれたアイデアの実現を「応援隊」等が現場で伴走支援し、業種を越えたビジネス興しを行います

オープンラボ(研究・交流)機能

産学公の緊密な連携により農林水産業・農山漁村の課題と解決方法を研究するとともに、府民の参画につながる交流の場を作ります

メディア機能

魅力ある京都の農林水産業や農山漁村での暮らしなどを広くPRして、京都に興味のある方々を大きく巻き込む活動をします


 特集
2

令和2年度 農林水産関係当初予算の概要

京都府では、令和元年10月に策定した新しい「京都府総合計画～京都夢実現プラン～」に掲げた府民協働で取り組む5つの「きょうとチャレンジ」をはじめ、「基本計画」や「地域振興計画」に基づく各種施策を着実に推進し、総合計画の実現に向けた発射台となる予算を編成したところであり、予算規模は、一般会計で前年度当初予算（6月補正含む）比0.4%増の9,018億53百万円を計上しました。

農林水産分野においても、令和元年12月に新たに策定した「京都府農林水産ビジョン」に掲げた5つの「重点戦略」を中心に、今後の農林水産行政を計画的かつ総合的に進め、農林水産業や農山漁村の希望ある将来ビジョンを実現するために必要な予算として一般会計で約210億円を計上しました。

【戦略1】スマート&コラボで農林水産業の夢と未来を創る

<①スマート技術の実装による生産現場の抜本強化>

■スマート農林水産業加速事業 ……………【継続 2億1,000万円】

生産現場の過疎高齢化による農林水産業の生産力低下と農山漁村コミュニティの衰退に対応するため、AI・ICT等先端技術を活用したスマート技術の実装を加速化し、農林水産業の作業性・品質・生産性を向上することで、府内農林水産業の成長産業化と魅力向上、集落維持を実現する。

<②異業種・異分野とのコラボによる新しい農業ビジネスの創出>

■加工用野菜産地化支援事業 ……………【新規 1,700万円】

外食や中食ニーズの増加により加工用野菜の需要が拡大する中、地域の農業者等と連携し、野菜の加工・販売を手掛ける食品加工関連企業等の誘致を図り、加工用野菜の産地化を推進する。

■アグリビジネス戦略事業 ……………【新規 1億1,931万円】

生産者のビジネスチャレンジを支援（相談窓口の設置、専門家派遣等）するとともに、商工関係団体との連携により、6次産業化・農商工連携などアグリビジネスによる商品開発から販路開拓までを一貫して支援する。

■園芸作物等高収益品目転換事業 ……………【一部新規 2,000万円】

収益性の高い園芸作物への転換を図り、京野菜等の生産力を強化するため、新規品目の導入や技術実証など、新たな園芸産地づくりに向けた取組を支援する。

（新）農業者への産地診断や経営評価等を通して収益性の高い新規品目の導入を提案

<③農林水産業を支える強い基盤づくり>

■農林水産技術センターあり方検討費 ……………【新規 200万円】

府内の農林水産業の多様な課題を解決し、地域を支える機関として農林水産技術センターに必要とされる役割とコンセプトを整理し、ソフト・ハード両面から備えるべき機能について検討する。

■海洋調査船建造費 ……………【新規 700万円】

水産制度改革に伴い資源管理の強化が必要となる中、府漁業の経営安定、漁村の活性化に貢献するため、海洋調査船「平安丸（平成9年竣工）」に代わる最新の性能を備えた調査船を建造する。

【戦略2】「林業の再生」と「防災・減災」の両輪で健全な森林を目指す

＜①京都産木材サプライチェーンの再構築と安定的な経営の実現＞

■次世代林業を担う林業事業体総合支援事業 …… 【一部新規 3億7,137万円】

生産性の向上と府内素材生産量の増加の実現による林業の成長産業化と適切な森林管理の両立を目指し、府内の林業を担う林業事業体の経営をソフト・ハードの両面で総合的に支援する。

(新) 林業事業体の経営力向上や担い手確保のための就業環境改善の取組等を支援

■新たな森林管理システム市町村支援事業 …… 【一部新規 1億689万円】

平成31年4月から施行された森林経営管理法に基づき、市町村が行う新たな森林管理システム(※)の取組を支援する。

(新) 市町村の要請を踏まえ森林経営管理サポートセンター設立の準備を開始

(※) 新たな森林管理システム：森林を市町村が適正に管理するため、林業経営の適否に応じて意欲と能力のある林業経営者に委託又は市町村自ら経営管理を行うもの

■林業「森世紀」創造戦略事業(生産体制強化) …… 【一部新規 1億2,165万円】

安定的かつ低コストの利用間伐を推進することで、出材量を増やすとともに、豊かな森づくりを推進する。

(新) 持続的な林業経営実現のため、再造林・保育経費の低コスト化を検証

■林業「森世紀」創造戦略事業(販路拡大) …… 【一部新規 1億2,798万円】

CLTを含めた府内産木材の利用を促進し、公共施設や民間施設等における需要を拡大するとともに、府民に対し木材利用や木の文化を発信する。

(新) 木材加工流通施設の整備や需要拡大の取組を支援

■豊かな森を育てる基金積立金 …… 【継続 7億円】

森林の多面的機能の維持及び増進を図るため、基金の積立を実施する。

「豊かな森を育てる府民税」を活用した事業一覧

(単位：千円)

事業名	事業概要	予算額	財源区分	
未来へつなぐ安心・安全の森づくり事業費	流木発生のおそれのある危険木の伐採・除去等	140,000	繰入	140,000
災害防止森林整備事業費	倒木や表土流出により人家等に被害を与えるおそれがある区域における、危険木の除去や簡易防災施設の設置等	125,000	繰入	125,000
人と森をつなぐ環境整備事業費	公共治山工事と一体的に行う府内産木材を利用した林内歩道等のアクセス整備	30,000	繰入	30,000
豊かな森づくり推進事業費	花粉の少ないスギ等の植栽等の支援、主伐後の環境林造成技術の確立等	25,250	国庫 繰入 一財	1,125 23,000 1,125
府民参加型里山ふれあい事業費	荒廃した里山の整備を府民公募により実施	36,000	繰入	36,000
豊かな森林継承事業費(一部新規)	全国育樹祭を契機とし、「木材需要の喚起・消費拡大」「森を学ぶ・体験する」「次世代の育成」をテーマにイベントを開催	13,500	繰入	13,500
伝統工芸の森プロジェクト事業費	漆等の生産拠点「伝統工芸の森」の造成等	3,000	繰入	3,000
京の森林文化を守り育てる支援事業費	地域住民による社寺の森の保全など、京の森林文化を将来に伝える取組を支援	30,000	繰入	30,000
京都の木のまち拡大事業費	府の公共施設、民間の施設や住宅などにおいて、府内産木材を利用した木造化や木質化、木製品の導入等を支援	106,331	繰入	106,331
CLT普及促進事業費	CLTの設計等総合相談窓口の設置	1,000	繰入	1,000
京の森と木魅力発信事業費	林業や木の文化を発信するイベントの実施等	3,000	繰入	3,000
地域振興推進費	豊かな森を育てる府民税の趣旨に合致する広域振興局管内の森林・林業の特色に着目した事業の実施	10,000	繰入	10,000
小 計		523,081	国庫 繰入 一財	1,125 520,831 1,125
豊かな森を育てる府民税市町村交付金	豊かな森を育てる府民税の趣旨に合致する市町村事業に対して交付金を交付	250,000	繰入	250,000
合 計		773,081	国庫 繰入 一財	1,125 770,831 1,125

<②森林災害の防止・低減に向けたハード・ソフト両面からの対策強化>

■森林災害防止事業 ……【継続 24億6,962万円】

平成30年台風21号による風倒木被害からの復旧と流木被害の未然防止対策を更に強化することにより、府民の安心・安全を確保する。

【戦略3】「京都らしさ」を生かしたバリューチェーンで国内外への展開を加速する

<①京都ブランドの世界展開の加速化と国内戦略の再構築>

■「京都ブランド米」新展開事業 ……【一部新規 6,750万円】

新たに開発した京都府オリジナル米新品種のブランド化を戦略的に進めるとともに、「京の米」の高品質化と知名度向上を推進し、新たな市場・販路拡大を展開する。

(新) 京都府オリジナル米新品種のブランド化に向けて戦略的にPRを推進

■宇治茶ブランド世界発信事業 ……【一部新規 1,400万円】

宇治茶の新たな市場・販路拡大を図るため、宇治茶のプレミアムブランド化や商標対策を推進するとともに、「京都府宇治茶普及促進条例」を契機とした茶業振興や世界文化遺産登録に向けた取組を展開する。

(新) 瓶入り宇治茶ドリンクのプロモーションや中国における商標問題の取組を推進

■「おいしい京都」世界戦略事業 ……【一部新規 2,390万円】

認知度向上による需要拡大のため、海外でのフェア開催や「京もの提供店」の海外展開等販売促進活動を実施する。

(新) 輸出に取り組もうとする農林漁業者の伴走支援等を実施

<②京都ブランドを支える流通の基盤づくり>

■京野菜安心・安全見える化促進事業 ……【新規 400万円】

栽培履歴記帳の電子化を進め、農家が生産に集中できる環境を整備することで府内産農林水産物の競争力を高めるとともに、生産・流通過程の見える化を図り、消費者等へ府内産農産物の安全性をアピールする。

<③京の食文化を守り育む食育・地産地消の推進>

■きょうと食いく先生活動拡大・強化事業 ……【一部新規 970万円】

「きょうと食いく先生」の派遣、地域の食育支援活動、若い世代を対象とした食育出前講座の開催等により体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進する。

(新) 動画作成等により食いく先生の魅力を発信

【戦略4】人づくりの裾野を広げ多様な人材が育む産業・地域を実現する

<①意欲ある「経営者」を育むオール京都体制と働き方改革の実践>

■農業経営チャレンジ支援事業 ……【一部新規 3,565万円】

次代の京都府農業を担う若手経営者を確保するため、従来の地域農業を牽引する中核的な担い手育成に加え、ICT等を活用して、企業的経営にチャレンジする担い手を育成する。

(新) 農業法人に新たな研修の場を設置し、ICT等先端技術や企業的経営の習得を支援

■京都農人材育成強化事業 ……【継続 4億3,815万円】

攻めの農業への転換を図るため、オール京都体制で「京都農人材育成センター」を運営し、京の農業応援隊（農業改良普及センターなど）による技術研修などの伴走支援に加え、段階に応じた経営研修を一体的に実施することで、高度な経営感覚を持つ農人材を育成する。

■**京都畜産未来の担い手づくり事業** ……………【**継続 400万円**】
 畜産の担い手が減少する中、畜産経営の法人化を進めることで対外信用力の向上や就業条件の改善を図るとともに、畜産法人等への就業や新規就農希望者を幅広く確保し、後継者として育成する仕組みを構築する。

＜②農林水産業・農山漁村を支える人材の裾野拡大＞

■**アグリセカンドライフ推進モデル事業** ……………【**新規 650万円**】
 50歳代以上の中高年齢者等の世代を中心とした企業社員等が農業分野においてセカンドキャリアを展開するため、営農に必要な基礎知識などを習得するリカレント教育をはじめとした就業支援モデルを構築する。

■**京都モデルフォレスト推進事業** ……………【**継続 500万円**】
 森林所有者、ボランティア団体、企業等が連携した府民参画、府民協働による森づくりを推進する。

【戦略5】 地域住民に寄り添い、強みを磨いて農山漁村（ふるさと）の絆を守る

＜①持続的で希望と活力に満ちた地域づくり＞

■**京都移住促進プロジェクト事業** ……………【**継続 1億4,667万円**】
 農山漁村の担い手が減少する中、新たな担い手の確保を核とした都市との共生によるまちづくりを総合的に推進し、活力ある地域を創出する。

■**有害鳥獣総合対策事業** ……………【**継続 5億4,742万円**】
 メスジカ等の捕獲強化や捕獲個体の処理施設の整備、防護柵の整備の支援、担い手育成等により農作物被害対策を推進する。

＜②京都の独自性や多様性を生かした地域ビジネスの展開＞

■**「食の京都」推進事業** ……………【**一部新規 1,810万円**】
 府域共通の観光資源でもある「食」を目的とした観光誘客を促進するため、「食の京都」をキーワードに地域の注目食材を活用した地域の魅力向上・消費地での認知度向上を図る。

（新）イートイン機能等を備えた農林水産物直売所等を「食の京都 TABLE」として整備支援

■**「農・観」連携地域コミュニティ応援事業** ……………【**継続 1,800万円**】
 野菜の収穫体験の実施等農山漁村の爽りや暮らしを体験できる地域資源を磨き上げ、地域をまるごと滞在施設化する取組を支援し、地域振興を図る。

令和元年度 2月補正予算（国補正関係）の概要

京都府では、公共事業等について、国の補正予算も積極的に活用しながら進めるために府議会2月定例会で冒頭提案を行い、令和元年度2月補正予算において、一般会計で136億82百万円を計上しました。このうち、農林水産分野では43億円を計上しました。

■**農林水産業基盤整備事業** ……………【**継続 43億400万円**】
 ブランド京野菜などの生産振興により、京都の農林水産業を未来につなげるため、生産基盤を整備するとともに、農山漁村地域の整備、防災・減災対策を実施する。

農政課 経理担当 TEL：075-414-4948

トピックス

丹後 TABLE が錦市場商店街にオープン！

「京都らしさ」で国内外への展開を加速

丹後地域の食の魅力や観光情報の発信を目的に、道の駅「丹後王国食のみやこ」を運営する（株）丹後王国が、昨年11月、京の台所錦市場に新店舗「丹後 TABLE」をオープンしました。

府内産木材を使用した暖かみある店内では、丹後の海産物やクラフトビールなど、こだわりの食材を使ったメニューが味わえる他、海の京都DMOによる丹後の食や名所などが映像紹介され、京都市内にいながら丹後を楽しめます。是非お立ち寄りください。



経営支援・担い手育成支援課 集落営農・法人化担当 TEL:075-414-4908

京都府産農林水産物 台湾への輸出拡大へ！

「京都らしさ」で国内外への展開を加速

京都府では平成29年度から京都府産農林水産物の海外輸出に取り組んでいます。

昨年10月には台北 SOGO 百貨店における物産展「京都美食展」に出展し、京たんご梨の試食・販売と九条ねぎや京みず菜などの京野菜の認知度調査を行ったところ、京たんご梨は好評により完売し、京野菜の認知度も高いことが分かりました。

今後も、日本食に関心の高い台湾への輸出拡大を進めるため、京野菜の産地づくりや現地での需要拡大を進めます。



京都美食展における試食・販売の様子 (令和元年10月台湾にて)

流通・ブランド戦略課 ブランド推進担当 TEL:075-414-4941

新たな「京都ブランド米」が誕生します！

「京都らしさ」で国内外への展開を加速

新たな「京都ブランド米」として開発を進めてきました京都オリジナル品種が完成し、令和3年産からの本格生産・販売に向け、本年5月から試験栽培がスタートします。

秋には名称も決定する予定で、徹底した品質管理を基本に、栽培方法にもこだわり、京都の高級な和食文化と結び付けたPR戦略を展開し京都ならではの高級ブランド米を目指していきます。



農産課 京の米・豆・保険担当 TEL:075-414-4953

畜産人材育成研修第一期生募集の結果、2名が合格しました！

人づくりの裾野拡大

令和2年度から農林水産技術センター畜産センターにおいて、将来の畜産経営を担う畜産人材育成研修を開始します。

第一期生を募集・選考した結果、酪農1名、肉用牛1名の計2名が合格し、4月から酪農・肉用牛経営の基礎的な知識や技術を学ぶとともに、府内の酪農家や肉用牛農家でのインターンシップ等で実践的な力を身に付け、2年後の就業・就農を目指します。



畜産課 畜産振興担当 TEL：075-414-4983

海の民学舎修了生が漁業者としての船出を迎えました！

人づくりの裾野拡大

京都府漁業者育成校「海の民学舎」では、将来を担う漁業者を育成するため、漁業協同組合や市町などと協力して、研修から就業・経営までフォローしており、これまでに11人の修了生を京都の漁業の現場へ送り出してきました。

この度、第4期生3名が2年間の研修を終え、京都の主要漁業である定置網や底びき網の現場で、漁業者としての第一歩を踏み出し、今後の活躍が大いに期待されます。

海の民学舎では、来年度から最新技術（ICT等）を習得するための講座を設けるなど、新たな漁業の担い手に役立つ支援を引き続き実施していきます。



漁業現場での実習の様子

水産課 漁政企画担当 TEL：075-414-4992

「京都林業のつどい」を開催！

「林業再生」「防災減災」で健全な森林を目指す

府内の林業や木材産業に関係する事業者の皆さんに、森林・林業を取り巻く現状や先進的な事例に関する情報を知っていただくため、令和2年2月27日（木）に「京都林業のつどい」を開催しました。

当日は120名の参加があり、「育林、伐採、流通等の低コスト化による森林資源の循環利用」をテーマに、生産者や加工過程などの産地の木材情報をクラウド上で共有、見える化した事例など3件の活動報告とともに、森林資源の循環利用に向けた活発な意見交換が行われました。



活動報告を熱心に聞く参加者の皆さん

林業振興課 林業経営強化担当 TEL:075-414-5018

シリーズ 農林水産技術センターへようこそ

京都府の研究機関の研究内容や成果をご紹介します

第11回

生物資源研究センター
畜産センター

令和元年に取り組んでいる研究を皆様にご紹介します。

研究1：赤い伏見とうがらし F₁ 品種の育成

京都府産の伏見とうがらしは未成熟の緑色の果実が一般的ですが、成熟した赤い熟果は、その鮮やかな色合いから、ホテル等の業務需要を中心に高価格で取引されています。しかし、既存の品種による栽培では、樹勢の低下や、しおれ果の発生により生産量が少なく、時期も限られるため、市場からは安定した出荷が求められています。

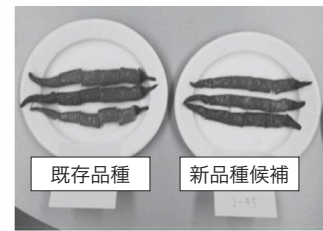
そこで、生物資源研究センターでは、これらの問題点を改善した新たな F₁ 品種※を育成するため、果形、収量、食味等の調査を行い、令和5年度から現地への導入を目標に新品種候補を選抜しています。

新品種の育成及び現地への導入により、赤い熟果が安定的に出荷され、新たなブランド京野菜として活用され、栽培農家の所得向上が期待されます。

※ F₁ 品種：異なる2つの品種または系統を交配して作られた一代雑種品種のこと。両親の特長を受け継ぎ、両親より生育が旺盛で収量も多くなる。



F₁ 新品種候補系統の栽培の様子



新品種候補は既存品種と見た目は変わりません

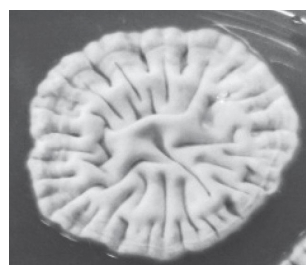
農林水産技術センター 生物資源研究センター 応用研究部 TEL：0774-93-3527

研究2：鶏 IgY 抗体を利用した牛の真菌感染リスク低減を目指して

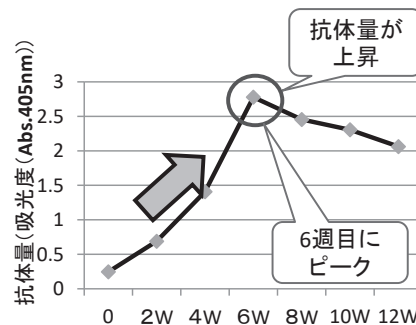
採卵鶏に抗原（無毒化した病原菌）を接種すると、病原菌に対抗できる IgY 抗体が鶏卵から入手できます。IgY 抗体は、病原菌に付着すると菌の増殖を抑制する働きがあり、病気の予防効果が期待できます。

当センターではこの原理を利用して、牛に脱毛や強いかゆみをもたらす「牛の皮膚真菌症」の抗原を鶏に接種して卵の中に抗体が生産されるかどうか確認したところ、抗原を接種してから6週目の卵に多くの抗体が作られることが分かりました。

今後は、この抗体が牛の皮膚真菌症に対して、感染抑制効果があるか等、牛に対する効果を確認することとしています。



牛皮膚真菌症より分離された菌(真菌)



農林水産技術センター 畜産センター 研究支援部 TEL：0773-47-0301

地域の取組

京都乙訓

令和元年度乙訓農業大会を開催！

令和2年2月19日（水）、長岡京市で農業者等200名を超える参加のもと令和元年度乙訓農業大会を開催しました。

当日は、乙訓農林業功労者表彰5名、府農山漁村伝承技能登録証交付3名等の式典に続き、京都市右京区京北の林業女性組織「樹々の会」代表一瀬裕子氏から「地域の魅力をカタチにして発信する」と題した講演がありました。

講演では、加工品の製造販売活動や林産物の収穫体験を柱に、他団体との交流を深め地域振興を実現している活動が紹介され、参加者にも「感動した」「共感できた」と大好評で今後の乙訓地域農業の活性化を考える上で大変参考になりました。



大会の様子(上:表彰者等の皆さん、左下:表彰の様子、右下:講演の様子)

京都乙訓農業改良普及センター TEL:075-315-2906

京都乙訓

狩猟（わな猟）初心者講習会を開催！

有害鳥獣による農作物被害の低減のため、狩猟免許（わな猟）を取得して1年目から3年目までの初心者を対象としたわな猟の講習会を開催し、2日間で36名の方に受講いただきました。

京都府猟友会の管内支部役員から、くくりわなの実演とわな猟の安全対策、マナーなどについて熟練者ならではのノウハウやコツを分かりやすく講義いただき、受講者からは「技術的なことでヒントになることが学べました」など狩猟の実践に生かしていこうという意見がありました。

今後も狩猟や有害鳥獣駆除の担い手となる狩猟者の増加に向けた働き掛けを強めていきます。



講義(令和元年12月)



実演

京都林務事務所 林務課 TEL:075-451-5724

山城

やましろ式スマート農業現地実演会開催 —傾斜地対応自動操舵型茶乗用摘採機—

山城地域の特産である「宇治茶」の生産現場は、山の斜面を開こんした「山なり茶園」が多く、傾斜地での作業の省力・軽労化が望まれています。

令和2年1月23日、傾斜地にも対応するよう新たに改良された「傾斜地対応自動操舵型茶乗用摘採機」の実演会を和束町において開催したところ、70名の生産者や関係者が参加されました。

実演会では、自動操舵により傾斜地でも安定して走行・摘採が可能なが示され、参加者から「摘採時の労力軽減や摘採茶葉の品質安定につながる」と高い関心が寄せられました。

今後も、山城地域の特性に応じたスマート農業導入に向けた取組を進めます。



自動操舵型茶乗用摘採機への関心が高く多くの人が集まる



茶乗用摘採機に試乗する生産者

山城広域振興局 農林商工部 企画調整室 農業・宇治茶振興担当 TEL:0774-21-2392

山城

お茶の京都 食のシンポジウムを開催！

「山城ならではの食・体験」の創出に向け、地元生産者と料理人など様々な分野から約50名が参加しました。

最初に、祇園のフランス料理店のオーナーシェフである西村氏から「宇治茶と料理のペアリングの可能性」について、基調講演を受け、地産地消に取り組む生産者、料理人による「地産地消と連携による新たな食の提案」をテーマにトークセッションを行いました。

その後、名刺交換など、今後のコラボレーションに向けた交流会となりました。

山城広域振興局では、「食の京都」の取組に向け、お茶の京都DMOとともに、地元の連携を支援していきます。



西村シェフの講演



トークセッションでは地元生産者と料理人が登壇

山城広域振興局 農林商工部 企画調整室 総務企画・地域戦略担当 TEL:0774-21-3211

地域の取組

南丹

「京都丹波木づかい運動」の推進 ～木の素晴らしさを発信中!!～

森の京都・京都丹波地域の木材の素晴らしさを多くの方に知っていただくため、生活の中での身近なシーンで地元産の木製品の利用を推進する「京都丹波木づかい運動」を展開しています。

今年度は、約 10,000 人の来場があった「森の京都・京都丹波 EXPO」などへの出展や京都府亀岡総合庁舎での展示 PR のほか、亀岡市立図書館と連携し、森や木に関する書籍と併せて展示するコラボ展を開催しました。

さらに、木工製作者や販売店等で構成するネットワークや、木づかい運動協力店の登録制度を設け、この運動の更なる拡大を目指し、取り組んでいます。

京都丹波木づかい運動

検索



亀岡市立図書館とのコラボ展
(令和元年8月)



森の京都・京都丹波EXPOへの
出展(令和元年11月)

南丹広域振興局 農林商工部 森づくり推進室 林業振興担当 TEL : 0771-22-1017

南丹

京都丹波のイチ推し食材の魅力を発信 ～「シェフと生産者によるグルメの集い」を開催～

南丹広域振興局では、(一社)全日本司厨士協会(京都府本部)とともに、京都丹波地域の食材の魅力を発信する取組を進めています。

今年度は、2月21日に京都市内のホテルにおいて地域の飲食店関係者も加わり、約160人が京都丹波の食材を使った一流シェフによる創作料理に舌鼓を打ちました。

今後は、地域食材の利用を更に促進するため、生産者と同協会、地域の飲食店関係者との連携を強化する取組を進めていきます。



生産者が京都丹波の食材をアピール
(令和2年2月)

南丹広域振興局 農林商工部 企画調整室 農畜産振興担当 TEL : 0771-22-0371

中丹

令和元年度「中丹いち推し商品」が決まりました

中丹広域振興局では、海・森の京都の魅力アップのため、中丹女性伝道師（※）による女性視点で買いたくなるパッケージの改良等、既存商品の魅力向上や新商品開発支援を行うとともに、「中丹いち推し商品」として選定し、そのPRに取り組んでいます。

令和元年度は、審査会を2回開催し、21点の商品を選定し、イベントで紹介する等販売を促進しています。

「中丹いち推し商品」特設ページに全ての商品の詳細や販売場所を紹介していますので、是非一度ご覧ください。



令和元年度第一期選定商品



令和元年度第二期選定商品

【「中丹いち推し商品」特設ページ】

<http://www.pref.kyoto.jp/c-no-kikaku/news/20190828itiosisyuhinn.html>

（※「中丹女性伝道師」とは、応募商品の審査・開発において助言等を行い、選定商品を情報発信する京都府の協力員です。）



中丹広域振興局 農林商工部 企画調整室 農業振興担当 TEL : 0773-62-2743

丹後

旬の食材が地元で食べられます！ 「海の京都旬の食材フェア」開催中

海の京都エリアでは、一年を通して四季折々の食材を楽しんでいただく「海の京都 旬の食材フェア」を開催しています。

春期は、プライドフィッシュ（漁師が選んだ本当に美味しい自慢の魚）にも認定されている「アカガレイ」「丹後とり貝」、この時期には“桜鯛”と呼ばれる「マダイ」のほか、見栄えもよく美味しい「キャベツ」、甘い「イチゴ」など旬の9種類の食材を使い、工夫を凝らしたメニューが「海の京都旬の食材提供店」18店舗で味わえます。



フェア（春期）は
令和2年6月30日まで開催

海の京都 旬の食材

検索

海の京都DMO TEL : 0772-68-5055

シリーズ スマート技術の活用で農林水産業が変わる！

京都の稲作に役立つスマート技術の実証を進めています

京都府では、ICT やロボットなどを活用したスマート農林水産業の普及に向けて、本年度から亀岡市保津町において稲作のスマート農業技術を実証・展示するプロジェクトに取り組んでいます。

田植えや水管理などの作業の自動化による労働負荷・労働時間の削減や、スマホアプリを利用した生育診断等による収量・品質向上の検証を進めるとともに、現地実演会を開催して、生産者にスマート農業機械・技術を紹介しています。プロジェクトでは令和2年度まで2箇年の計画で、京都府の稲作に適したスマート技術体系の確立を目指します。



直進キーブ田植え機の実演
(令和元年6月)



水管理システムの実演
(令和元年6月)



スマートフォンアプリによる
生育診断

※本実証は、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の支援により実施しています。

流通・ブランド戦略課 研究推進担当

TEL : 075-414-4968

農林水産技術センター農林センター作物部

TEL : 0771-22-5010

スマート農業推進活動をオール京都で展開 ～夢のある農業への持続的発展に向けて～

京都府では、担い手不足や農作業の省力化に即応し、地域の実情にあったスマート農業を推進するため、今年度から農業改良普及センター職員を中心に「スマート農業推進プロジェクトチーム」を立ち上げました。

企業や先進地の情報や専門家の紹介などの相談を受けるワンストップ窓口設置や中山間地域にあった技術の改良をメーカーと連携して行う等、京都らしいスマート農業の実現に向けきめ細やかな伴走支援を行います。



ドローン操縦技術研修
(令和元年10月)

農産課 農業応援伴走支援担当

TEL : 075-414-5989

発行/令和2年3月

編集/〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入 京都府農林水産部農政課

TEL : 075-414-4898 E-mail : nosei @ pref.kyoto.lg.jp

世界人権宣言65周年キャンペーン「お互い支え合うことの大切さ」をイメージした人権啓発イメージソング「世界がひとつの家族のように」ができました。歌い広め、「いま、わたしたちにできること」を考えてみませんか

公式ホームページ <http://www.jinendo.co.jp/sekaigahitotsunokazoku/>